

反転学習を促進するための授業展開

石津希代子

聖隷クリストファー大学
リハビリテーション学部 言語聴覚学科

発表内容

1. はじめに
 2. 教育改善の内容・方法
 3. 教育実践による効果
 4. 考察および今後の課題
-

「大学全入時代」という状況

保健・医療・福祉の専門職を養成する大学だが…

- * 目標が不明確、意欲のない学生 ↑
- * 低学力
- * 主体性の欠如



教育に工夫が必要

- * 講義の工夫
- * 教材の工夫（配布資料、講義資料）
- * 講義の充実化・学習の習慣化（予習）などの実践

問 題

- * 講義中心の知識伝達型の授業では、基本の用語を教えることで精一杯。
- * 専門知識の学修や、臨床的課題への応用に繋げることが難しい
- * 知識の積み重ねがないまま授業が進むため「分からない所が分からない」「疑問・興味がない」

2014年度より反転授業を導入

(平成27年度 ICT利用による教育改善研究発表会)

反転学習における個別フォローの相乗効果

反転授業を導入するとともに、学生のフォローアップを重視した対応を実施。学生の授業への主体的・積極的な参画実現を図った。

- * 授業内外で質問が増加
- * 臨床的な視点の気づきや疑問が増加
- * 問題発見能力、学習到達度の向上
- * 協働学習をさらに促進し充実させる
授業内の活動内容の検討が必要

発表内容

1. はじめに
 2. 教育改善の内容・方法
 3. 教育実践による効果
 4. 考察および今後の課題
-

反転授業において、どのような活動を
授業で実施すれば協働学習が活発化するのか



実践報告

事前学習で獲得した知識をもとに、
授業内の活動に、様々なグループワークを実施

実施科目

	2015年度
科目	聴覚障害学Ⅱ（専門科目）
学年・期間	2年次 後期
時間数	60 時間(30回)
履修学生	19名 → 1年次より 反転授業を経験

授業の流れ (事前学習)

- * Moodle上に科目コースを設定
学習用の動画、小テスト(○×形式 5問)
- * Office Mixを用いて動画作成、長さは10分前後
- * 学生には、授業前に動画を視聴し、ノート作成を指示
- * 1日の授業で1～3本の動画を視聴
- * 動画視聴(必須課題)の後、小テストを受ける(任意課題)

授業の流れ (事前学習の確認)

- * 動画をみて作成したノートは授業前に教員に提出(任意)
- * 個々の実施状況や記載内容を把握するためルーブリックを用いて確認
- * ルーブリックにチェックし、簡単なコメントと共に授業前に学生に返却

授業の流れ (2014～2015年前期)

授業内の活動		問題
人数	3～4名の小グループ	
目標	動画で説明された用語・事象を他者に説明できる	
使用物	教科書・PC・iPad	
内容	* 事前学習でまとめたノートを見て動画内容を互いに説明しあう * 分からない用語を調べる・質問する	✓グループによって取り組みに差（浅薄な議論内容への関心↓） ✓分からないままに進むグループもあり ✓毎回、同じ活動で単調 ✓活動が活発化しない

授業の流れ (2015年後期)

授業内の活動	
人数	3～4名の小グループ
目標	自分の考えを伝える、他者に発表する
使用物	教科書・PC・iPad MoodleのWikiページ・MetaMoji Share・模造紙等
内容	* ノートを見て内容を確認する（極力少なく） * グループ別に異なるテーマを提示。 掘り下げて調べる・まとめる・発表する * 臨床場面を想定した問題を討論する * Think-Pair-Share・ジグソー・ポスターツアー...

授業回	動画時間	教材・内容
1-2	7:55	ジグソー (A4用紙にまとめる)
3-4	11:22	ポスターツアー (模造紙にまとめる)
5-6	4:40 12:48	用語調べ (Moodle Wiki ページを作成)
7-9	12:15 3:25	ジグソー (MetaMoji Share)
		ポスターツアー (模造紙にまとめる)
		グループ討議 (A4用紙にまとめる)
		ジグソー (MetaMoji Share)
		グループ討議 (MetaMoji Share)
	3:08	ポスターツアー (模造紙にまとめる)
25-27	11:54 11:10	グループ討議 (A4用紙にまとめる)
	8:50	
28-29	10:30 16:50	用語調べ (Moodle Wiki ページを作成)
30	8:06	グループ討議 (MetaMoji Share)

- ・テーマは身近な事象や臨床的内容
- ・グループワークが毎回同じ方法にならないように

授業の流れ (授業)

- * 教員はグループ活動をファシリテートしつつ
適宜、説明や補足、資料の提示、質問に回答
- * 個々の学生の疑問点・理解状況の把握
 - 授業終了時、リアクションペーパーに
質問や理解不十分な点を書かせ提出
 - 内容を確認し、回答・コメントをして即返却

発表内容

1. はじめに
 2. 教育改善の内容・方法
 3. 教育実践による効果
 4. 考察および今後の課題
-

期末試験

対象

聴覚障害学Ⅱの履修学生

2014年度 反転授業形式 24名

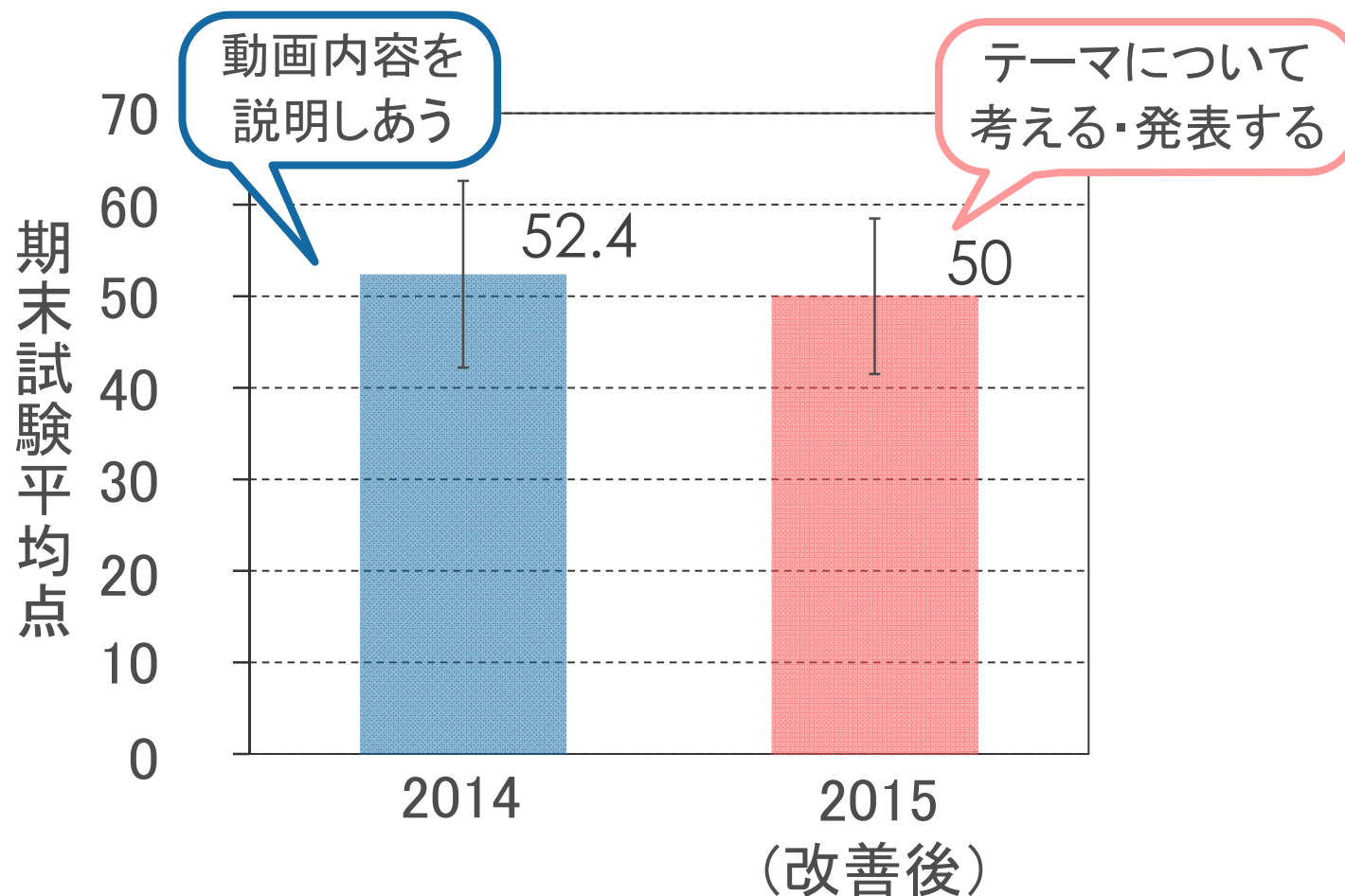
2015年度 反転授業形式 19名

方法

* 期末試験(筆記)の成績を比較

* 両年度とも同じ問題(70点満点)を実施

聴覚障害学Ⅱ



授業内の活動の違いによる成績差はない

($t(41)=0.82, ns$)

授業後アンケート

(授業・学習方法に関する意見調査)

対象

聴覚障害学Ⅱの履修生 19名

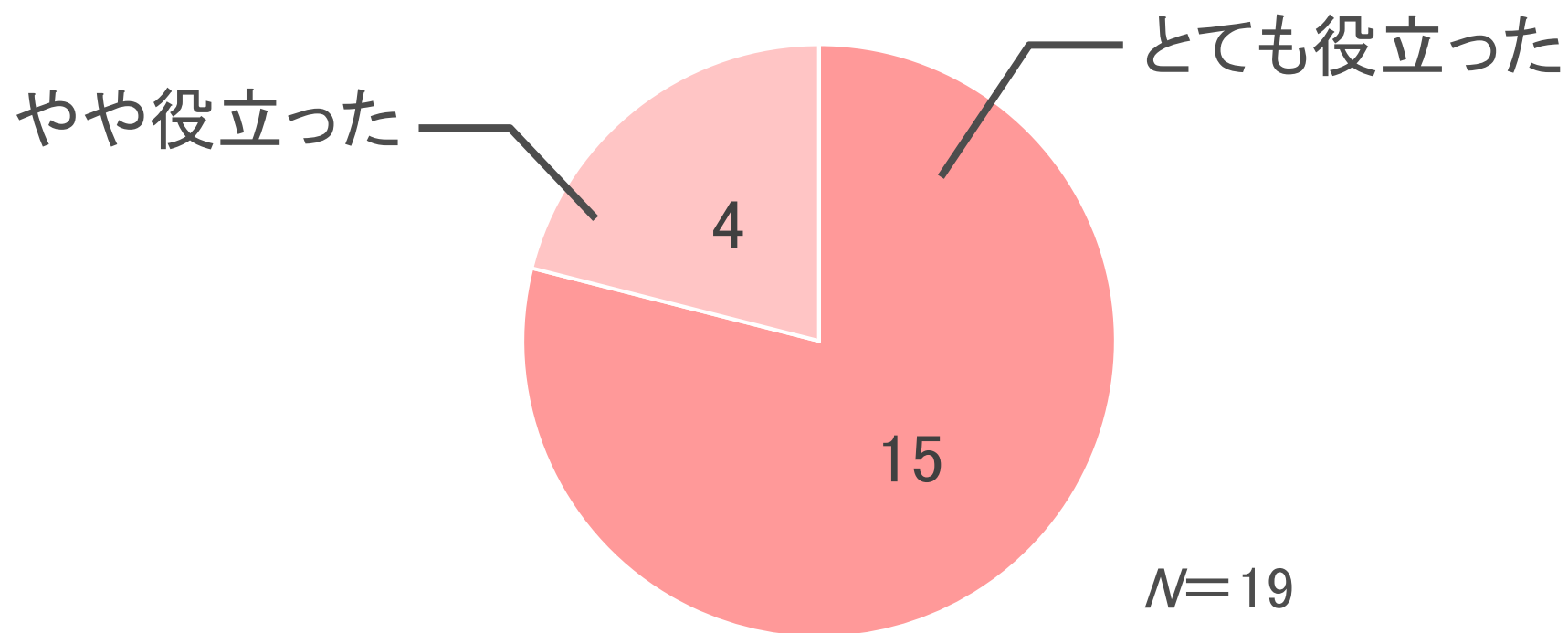
方法

- * アンケートはGoogleフォームを用い作成。
- * 対象学生にアンケートのURLをメール送信し
回答を得た

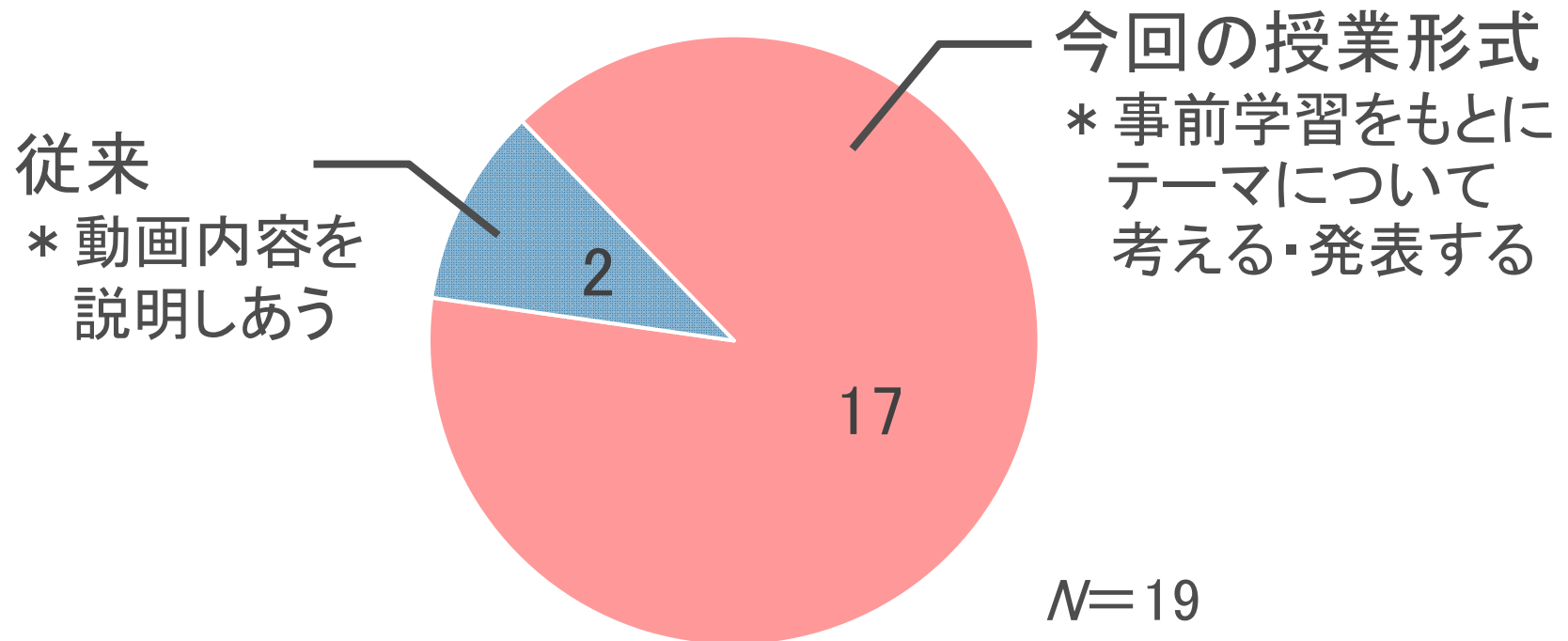
調査項目

- ☐ 事前に動画をみることは授業内容の理解に役立ったか (5段階評価)
- ☐ 従来の反転授業と今回の授業形式を比較し、どちらが理解を深めるのに役立ったか
- ☐ 様々な活動を通し授業で議論した。
理解を深めるのに役立ったのはどれか
(多肢選択・複数回答)
- ☐ 授業についての意見 (自由記述)

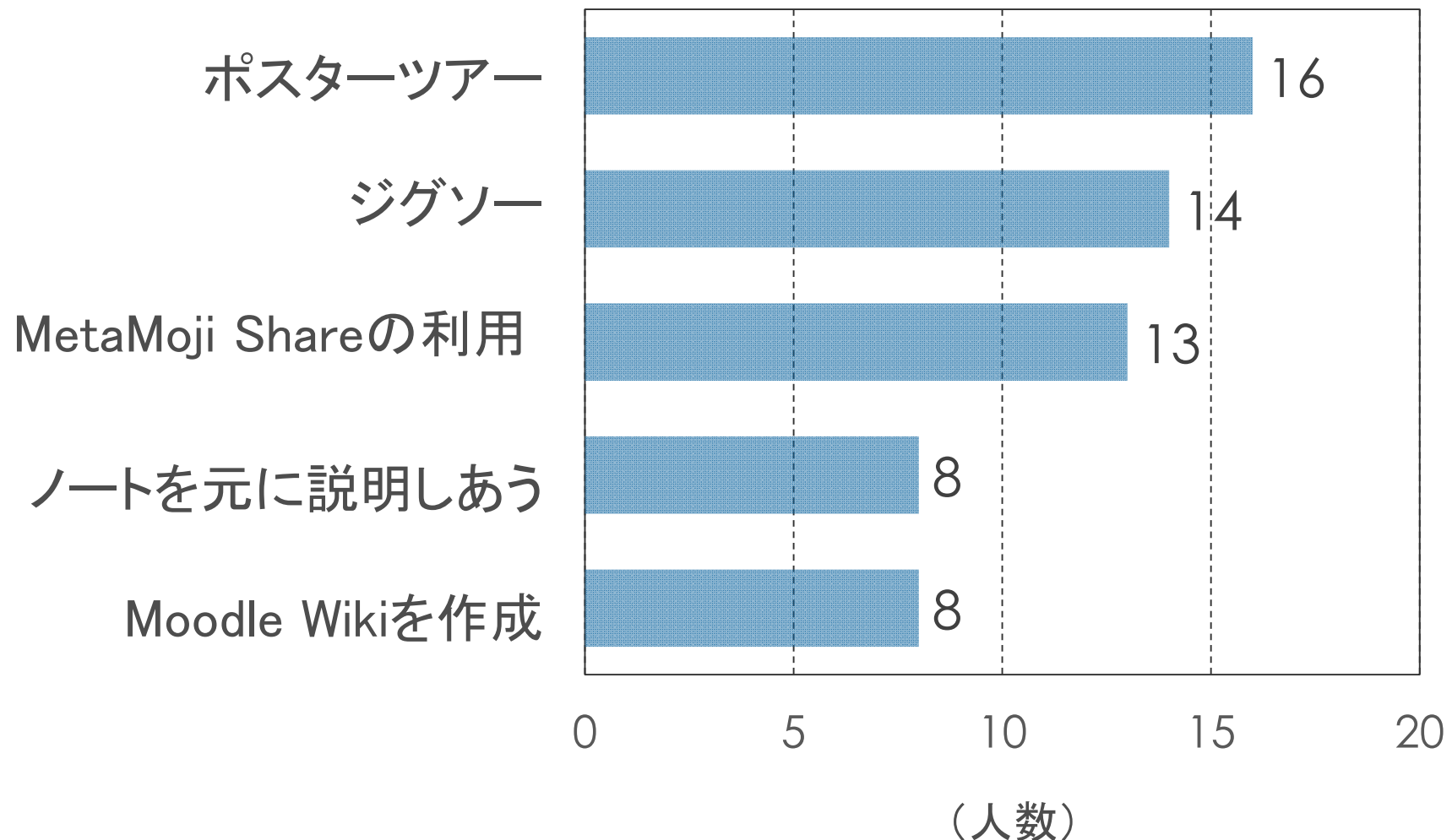
事前に動画を見ることは 授業内容の理解に役立ったか



従来の反転授業と今回の授業形式を比較し どちらが理解を深めるのに役立ったか



様々な方法で実施したグループ活動のうち 理解を深めるのに役立った活動が何か



授業に関しての意見

- グループで動画の内容を説明したり、先生が説明したりするほうが良い。
-

- 授業が楽しかった。
 - 事前学習は大切だと改めてわかった。
 - ディスカッションで、自分では気づけなかった疑問に気付くことができた。
 - ノートのまとめ方の改善点が見つけられるようになった。
 - 従来までの反転授業の授業形式は、自分自身で理解を深められたが、今回の形式の方が発展的な内容を学べる
 - 自分のグループが調べた内容は記憶に残っているが、他のグループの内容は覚えているものが少ないように思う。
-

発表内容

1. はじめに
 2. 教育改善の内容・方法
 3. 教育実践による効果
 4. 考察および今後の課題
-

課題

授業でどのような活動を実施すれば
反転授業において協働学習が活発化するのか

事前に動画を視聴し獲得した知識をもとに、
授業は、様々なグループワークの方法を用いて展開。

より「深い学習」になるよう、能動的活動を促した。

- ・学生間で議論する
- ・グループでテーマをまとめ表現すること
- ・発表すること …

従来の反転授業で行ってきた活動より
今回の授業形式の方が好評

* 様々な道具(デジタル・アナログ)や、方法
(ジグソー・ポスターツアー・等)で
グループワークを実施

授業に変化・興味、動機づけ↑

* Shareアプリを活用
グループ内/間での意見が共有しやすい↑

* 従来の形式 （動画内容を説明しあって内容を共有する活動）

グループメンバーや授業トピックによっては十分に深めることができず、事前学習と同じように「分かったつもり」で、授業を終えてしまっていた可能性

* 今回の形式 （事前学習で何となく分かった知識をもとに 関連テーマについて調べ、深く理解していく活動）

「分かったつもり」であった内容が、わかったり、新たな気づきにつながったりしたことが学生にとって満足感に。

これまで実施してきた反転授業の形式と、
今回の授業形式に、試験の成績差はない

→ より深い学習アプローチを

→ 学生にとって「役立つ」「楽しい」学びを

今後の課題

*「覚える」や「用語や内容を理解する」といった浅い学習アプローチを好む学生も。

→今までの学習経験

→与えられた課題を解決し、評価基準を満たすことを目標としている(?)

丸暗記や表面的に理解することに留まりがち。
より深い学習へと導く方法・仕掛けが必要

今後の課題

- * テーマの選定

- 課題設計

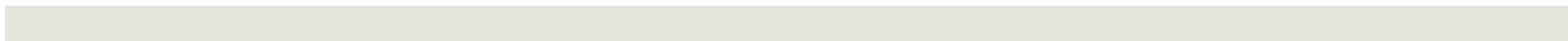
- (年次・科目に応じ、どう設計するか)

- * グループワーク

- 「他グループの内容は覚えているものが少ない」

- 如何に他の内容にも興味をもたせるか

- 学びを深めるか…検討が必要



●ジグソー法

- ・アロンソン（1996）がグループ活動支援方略として考案
それが協調学習を支援する方略として発展

- 1) 教材を分割
- 2) 各グループに課題を配布
- 3) 各グループ（エキスパートグループ）によるワーク
- 4) 新グループの再構成（エキスパートグループからジグソーグループを編成）
- 5) ジグソーグループで学習（知識の共有、新たな課題解決を行う）
- 6) ジグソーグループでの学びを全体で共有する
- 7) 再度エキスパートグループに戻って、ふり返り

●ポスターツアー

- ・ジグソー法的なグループの再編成を行い、ポスターの内容を共有する

- 1) 課題を用意
- 2) 各グループでポスターを作成
- 3) ツアーグループの編成（各グループから1人ずつはいるように）
- 4) ポスターツアー
（ツアーグループでポスターをまわり、自分の作成したポスターを説明）